

# 実績報告書

届出者	住所	大阪市北区堂島浜 1-2-1 新ダイビル 2710号室	氏名	GHS株式会社 大阪ホテル事業所 代表取締役 近藤 智 <span style="float: right;">㊞</span>
特定事業者の主たる業種		75宿泊業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		ホテル運営並びにその運営委託 料理・飲食店業 酒類・煙草・郵便切手・収入印紙の販売 不動産の賃貸・売買・及び管理業 ヘルスクラブ・プール等運動、遊戯施設の開発と運営業 両替業 一般旅行業、国内旅行業並びに旅行代理店業 貴金属、食料品、衣類、書籍、その他一般雑貨販売及び輸出入業 損害保険代理店業 前各号に付帯関連する一切の事業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	6,525 t-CO <sub>2</sub>	6,370 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,991 t-CO <sub>2</sub>	6,861 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	3 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	3.9 %	-0.3 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	4 %	-0.8 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( 年間の来場者数 )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>年間来場者数が、基準年度を下回り一人辺りの温室効果ガスは原単位ベースで未達となる。 只、年間を通しての総排出量(平準化補正後)は、130 t-c o2 と答かながら抑制している。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

ホテルグループ独自のエネルギーの削減手法や環境に配慮したアクションプランを推進し2ヶ月に1回のグリーンチーム（省エネルギー委員）による水道光熱使用量やプログラムの進捗状況の報告会を行っている。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	ANAクラウンプラザホテル大阪	コード(5113) OAタップの増設	事務系を中心にスイッチ式のOAタップの増設	27年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	ANAクラウンプラザホテル大阪	コード(1113) EVの運転時間の見直し	客用EV及び従業員用EVの深夜運転を各1基ずつ停止	27年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	ANAクラウンプラザホテル大阪	コード(1113) 各宴会場の空調運転の見直し	各宴会場のこまめな空調機運転の停止	27年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	ANAクラウンプラザホテル大阪	コード(1113) 照明の消灯時間の変更	アースアワー及びライトダウンジャパンへの参画(6月21日及び7月7日 20:00～22:00) 1F外廻りと屋上ネオンサイン消灯	27年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	ANAクラウンプラザホテル大阪	コード(1127) 室内の設定温度の見直し	BEMSシステムによる室内の設定温度の見直し	27年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	ANAクラウンプラザホテル大阪	コード(4120) 外気温度との遮断	客室清掃後、カーテンを閉め外気温度を遮断する	27年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	ANAクラウンプラザホテル大阪	コード(1218) 館内の照明スイッチの最適化	各宴会場及びレストランに於いて時間帯別の照明点灯時間を文書化し毎日、担当者が確認を行っている。	27年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	ANAクラウンプラザホテル大阪	コード(5221) 省エネルギー製品の導入	各厨房に設置している業務用冷凍庫及び冷蔵庫の更新計画に伴いトップランナー対象商品の高効率機器を導入(57台)	28年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1		GHG排出		コード		～ 年度
		人工排熱				

**(3)**その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府堺市西区築港浜寺町1番地	氏名	JXTGエネルギー（株）堺製油所 所長 内野 一人
特定事業者の主たる業種		17石油製品・石炭製品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		石油製品の製造。 原油を原料とし、主製品としてLPG、ガソリン、灯油、軽油、重油、石油化学製品(TBA, パラフィン他)を製造している。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	1,209,723 t-CO <sub>2</sub>	1,237,388 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	1,210,381 t-CO <sub>2</sub>	1,237,664 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
		削減率(原単位ベース)	3.4 %	5.2 %	11.3 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	5.2 %	11.4 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産数量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>平成28年度の温室効果ガス排出量は、基準年度に対し原単位ベース(温室効果ガス/通油量)で約11.3%改善しました。前年度は定期整備に伴う装置停止期間がなく、1年間を通じて高い処理量を維持した結果、温室効果ガス総排出量は増加したものの原単位ベースでの排出量削減につながりました。また省エネ活動等の排出抑制策の継続的な実行も削減に寄与しています。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

弊社 堺製油所では、エネルギー効率改善状況とエネルギー削減項目の進捗状況について、製油所のマネージメントへの報告と達成状況のチェックを目的として、月次の省エネ会議を開催しています。また、製油部門でも同様に月次の省エネ会議を開催し、新規案件の発掘や進捗状況の管理を行い、日常運転におけるエネルギー使用の合理化を図っています。  
更に、日常の生産活動におけるエネルギー使用の合理化を図るため、日常の省エネ会議を開催し、当日にできる省エネを確認し、運転調整しています。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	JXTGエネルギー (株) 堺製油所	コード (1122) 排熱回収	石化装置への廃熱回収ボイラー増設 (2026 tCO2/年)	27 年度
	レ	人工排熱				28 年度
		平準化				
2	レ	GHG排出	JXTGエネルギー (株) 堺製油所	コード (1122) 排熱回収	熱交換器移設による減圧蒸留装置の排熱回収強化 (1441 tCO2/年)	27 年度
	レ	人工排熱				28 年度
		平準化				
3	レ	GHG排出	JXTGエネルギー (株) 堺製油所	コード (1113) 蒸気ベント削減	弁取替えによる蒸気ベント削減 (1043 tCO2/年)	27 年度
	レ	人工排熱				28 年度
		平準化				
4	レ	GHG排出	JXTGエネルギー (株) 堺製油所	コード (1121) 加熱炉燃焼合理化	石化装置 加熱炉小改造による余剰空気削減 (1992 tCO2/年)	27 年度
	レ	人工排熱				28 年度
		平準化				
5	レ	GHG排出	JXTGエネルギー (株) 堺製油所	コード (1113) スチーム調整	ガスタービン発電設備 脱硝スチームコントロール変更 (210 tCO2/年)	27 年度
	レ	人工排熱				28 年度
		平準化				
6	レ	GHG排出	JXTGエネルギー (株) 堺製油所	コード (1121) 加熱炉燃焼合理化	接触改質装置 加熱炉小改造による余剰空気削減 (262 tCO2/年)	27 年度
	レ	人工排熱				28 年度
		平準化				
7	レ	GHG排出	JXTGエネルギー (株) 堺製油所	コード (1121) ボイラー負荷低減	常圧蒸留装置 接触改質装置 加熱炉蒸気圧変更によるボイラー負荷低減 (1101t CO2/年予定)	28 年度
	レ	人工排熱				28 年度
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度
		人工排熱				～
						年度

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府堺市堺区大浜西町9-1	氏名	JFEコンテナ(株) 堺工場 工場長 井上 毅
特定事業者の主たる業種		24金属製品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		工場 1、営業所 1 ドラム缶の製造・販売		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	3,457 t-CO <sub>2</sub>	3,351 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,712 t-CO <sub>2</sub>	3,599 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース) 0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	削減率(原単位ベース) 3 %	-0.1 %	1.6 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		-	-0.1 %	1.6 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (ドラム缶生産数量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>省エネ活動として前年度に引き続き、ガス発電機設置による電力重負荷時のみ稼働、工場内エアリー漏れ対策等を行うことで28年度は総使用量と原単位ベース両方共に基準年度より削減できた。生産数量は増加していないが、自主保全活動の取り組みにより故障時間が低減していることに加え、コンプレッサー更新等で高効率な機器を導入したことより、前年度よりも温室効果ガスを削減することができた。</p>
---

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

- ・ 全社でISO14001を認証取得
- ・ 技術部門役員を環境管理統括責任者とした環境マネジメントシステムを運用しております
- ・ 四半期ごとに対策の進捗状況を環境管理統括責任者に報告し、現状改善等を検討しております
- ・ 全員が環境方針を理解し実践するための教育と啓蒙をおこない、環境改善活動の基盤を整えていきます
- ・ 全社で環境指向製品の開発・普及活動及び製品リユース、リサイクル関連サービス活動を実施しております

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	堺工場	コード(1111) 設備改善及び 導入	最適な生産体制を構築すべく、生産設備 の導入と計画を実施。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	堺工場	コード(1218) 照明設備の導 入	省エネ効果の高い照明設備に随時更新し ている。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	堺工場	コード(1111) 空調温度適正 化と昼休みの 消灯	事務所び工場休憩所の空調温度適正化と 昼休みの消灯を実施している	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
4	レ GHG排出	堺工場	コード(1214) ガス発電機の 導入	電力ピーク時、ガス発電機の自家発電に よる電気需要平準化	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
5	レ GHG排出	大阪支社	コード(1111) 空調温度適正 化と不在時の 消灯	空調温度適正化（エアコンの温度設『冷 房28℃』『暖房22℃』）と不在時 （特に会議室）は使用しない。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
6	レ GHG排出	大阪支社	コード(1111) 不要照明の消 灯	不要な照明は食休時、不在時、退社時は 消灯を実施。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	堺工場	コード(2224) 輸送効率の向 上に向けた提 案	物流システムを構築し運用している	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
2	レ GHG排出	堺工場	コード(2223) 定期的な物流 会議	月1回物流会議を実施し、物流効率化の 検討、情報・意見交換等を実施し、関係 者の連携・協議体制の構築を図っている	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府岸和田市田治米町153-1	氏名	J F E 継手株式会社 代表取締役社長 寺内 琢雅
特定事業者の主たる業種		22鉄鋼業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に可鍛鋳鉄及びF C D製造を行っており、大阪府内に本社工場の1工場を有している		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	18,981 t-CO <sub>2</sub>	16,438 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	21,344 t-CO <sub>2</sub>	18,814 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	13.1 %	13.4 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	15.5 %	11.9 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

高周波炉のインバーターによる自動制御を行うことによって、ピーク電力が削減された
---



◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

全社的には環境マネジメントシステム (ISO14001) の取得後、省エネ (地球温暖化防止) 活動を積極的に実施している。又、各現場対象で省エネルギーコンペを実施して優秀な職場には表彰して各職場の士気を上げている。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	本社工場	コード (1218) 省エネ効果の高い照明設備への変更	粉塵・熱 対応のLEDが普及してきたので悪環境の場所でのLED化の検討。環境の良いところは随時実施中。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	本社工場	コード (5221) 高効率トランスへの更新	老朽化かつ効率の悪いものに対して更新し省エネ	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	本社工場	コード (5221) 高効率ポンプへの更新	老朽化かつ効率の悪いものに対して更新し省エネ	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	本社工場	コード (2121) 社有車をハイブリッド車に入れ替える	社有車の低燃費車をハイブリッド車に入れ替える	0 年度 ～ 0 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市中央区南船場 三丁目5番8号	氏名	株式会社ジェイテクト 取締役社長 安形 哲夫
特定事業者の主たる業種		25はん用機械器具製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<p>当社は、ステアリングシステム、駆動系部品、軸受、工作機械、電子制御機器、住宅付属設備品などの製造・販売を事業としております。</p> <p>大阪府下では、大阪市中央区に大阪本社、柏原市に国分工場（第1工場、第2工場）と研修センターがあり主に軸受製造・販売を行っております。</p>		

## ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

### (2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	59,634 t-CO <sub>2</sub>	52,601 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	64,245 t-CO <sub>2</sub>	56,432 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

### (3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	-1.4 %	-5.1 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	-1.2 %	-4.7 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (内製生産高)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	
製造事業場(国分1工場、国分2工場)は、 原単位 = CO <sub>2</sub> 排出量 / 内製生産高で、平成29年度の削減目標を3%で設定。	

### (4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

第2年度計画は、第1年度計画分を分を占め原単位2%削減目標であったが、逆に5.1%の悪化となった。 原単位悪化の理由はCO <sub>2</sub> 排出量は前年比8.9%削減できたものの、内製生産高が前年比12.2%減少したため 結果的に原単位の悪化となった。	
①CO <sub>2</sub> 排出量要因 <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季、冬季の空調使用量増加(季節要因、熱中症対策、製品品質の為)</li> <li>・新規導入炬の立上によるエネルギーロス</li> </ul>	
②内製生産高要因 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車用ハブ生産課の同社他県亀山工場移管による内製生産高減少(37.2億円減少)</li> <li>・震災による仕事量の減少</li> </ul>	

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

・社長を委員長とする地球環境保全委員会のもと、環境専門部会である『温暖化対策省エネ部会』を設置し、毎月の計画・実績のフォローを実施。温暖化対策省エネ部会の中には、「工場温暖化対策省エネWG」「本社等間接部門省エネWG」を設置し、前者では全工場の改善活動を実施、後者では本社・支社・営業所の改善活動を実施しています。  
 ・環境特別予算（CO2チャレンジ・見える化）を確保しCO2削減に努めていきます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	国分工場 第1工場	コード(1215) 生産設備	1生 外輪SF静圧ポンプのインバータ化 (3.74 t-CO2削減) 27年度完了	27年度
		人工排熱				29年度
		平準化				
2	レ	GHG排出	国分工場 第1工場	コード(1218) 照明設備	1生 検査台人感センサ設置による不要時照明電力削減 (1.97 t-CO2削減) 27年度完了	27年度
		人工排熱				27年度
		平準化				
3	レ	GHG排出	国分工場 第1工場	コード(1215) 生産設備	1生外輪研磨機砥石モーターを高効率モーター化 (8.26 t-CO2削減) 28年度より実施予定⇒投資に見合わず中止	27年度
		人工排熱				29年度
		平準化				
4	レ	GHG排出	国分工場 第1工場	コード(1218) 照明設備	3生・転子 ライン照明LED化 (8.6t-CO2削減) 27年度完了	27年度
		人工排熱				27年度
		平準化				
5	レ	GHG排出	国分工場 第1工場	コード(1218) 照明設備	1生・3生・4生上 ライン照明LED化 (9.81 t-CO2削減) 27年度完了	28年度
		人工排熱				29年度
		平準化				
6		GHG排出	国分工場 第1工場	コード(5111) 空調設備	南熱 パッケージエアコン更新しコージェネ冷水利用による省エネ運転 (77.6 t-CO2削減) 27年度完了	27年度
		人工排熱				28年度
	レ	平準化				
7		GHG排出	国分工場 第1工場	コード(5221) 受変電設備	南コンプレッサー変電所 高効率高圧変圧器へ更新 (1.84 t-CO2削減) 27年度完了	27年度
		人工排熱				28年度
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	国分工場 第1工場	コード(1211) 燃焼設備	南熱 ストレートスルー炉3号導入 (電気加熱からガス加熱へ) (18.8t-CO2削減) 27年度完了	28年度
	レ	人工排熱				29年度
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	国分工場 第1工場	コード(1218) 照明設備	1生課照明LED化 (14.67 t-CO2削減) H28年度完了分 (H29年度継続実施)	28年度
		人工排熱				30年度
		平準化				
10	レ	GHG排出	国分工場 第1工場	コード(1218) 照明設備	3生課照明LED化 (11.5t-CO2削減) H28年度完了分 (H29年度継続実施)	28年度
		人工排熱				30年度
	レ	平準化				
11	レ	GHG排出	国分工場 第1工場	コード(5221) 受変電設備	北ポンプ変電所 高効率高圧変圧器へ更新 150KVA1台 (0.9t-CO2削減) H28年度完了	27年度
		人工排熱				29年度
		平準化				

12	レ	GHG排出	国分工場 第1工場	コード(1215) 圧縮空気除湿 設備	南工場 電気除湿機をハイグロマスター へ (215 t-CO <sub>2</sub> 削減) H28年度完了	28 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
13	レ	GHG排出	国分工場 第1工場	コード(1218) 照明設備	転子 収納エリアLED化及び人感セン サ設置による不要時照明電力削減 (1.99 t-CO <sub>2</sub> 削減) H28年度完了	28 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
14	レ	GHG排出	国分工場 第2工場	コード(1218) 照明設備	5生 研磨工場照明LED化 (33.95 t-CO <sub>2</sub> 削減) 28年度完了	27 年度 ～ 28 年度
		人工排熱				
		平準化				
15	レ	GHG排出	国分工場 第2工場	コード(1211) 燃焼設備	大熱 大型バッチ炉導入による既存ピッ ト炉寄せ止め(電気加熱からガス加熱 へ) (13.7t-CO <sub>2</sub> 削減) 28年度 実施完了	28 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
16	レ	GHG排出	国分工場 第2工場	コード(1211) 燃焼設備	大熱 大型浸炭炉N2ページによる昇温 でガス、電力削減(16.1t-CO <sub>2</sub> 削減) ⇒投資に見合わず中止 27年度未実施	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
17	レ	GHG排出	国分工場 第2工場	コード(1211) 燃焼設備	大型熱処理 アルカリ洗浄機の排熱利用によ る 洗浄液保温(ヒーター電力削減) (13.1 t-CO <sub>2</sub> 削減) H28年度完了	27 年度 ～ 28 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
18	レ	GHG排出	国分工場 第2工場	コード(1211) 燃焼設備	大型熱処理 温水洗浄機の排熱利用によ る 洗浄液保温(ヒーター電力削減) (18.0 t-CO <sub>2</sub> 削減) H28年度完了	28 年度 ～ 28 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
19	レ	GHG排出	軸本ビル	コード(1218) 照明設備	2Fロビー吹抜け照明LED化 (2.8 t-CO <sub>2</sub> 削減) 27年度完了	27 年度 ～ 27 年度
		人工排熱				
		平準化				
20	レ	GHG排出	軸本ビル	コード(5113) 照明設備	3Fフロア照明LED化 (4.1t-CO <sub>2</sub> 削減) 29年度実施予定	29 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
21	レ	GHG排出	大阪本社・ 軸本ビル・ 国分本館・ 国分研修セン ター	コード(1218) 照明設備	照明の消灯(昼休み・休憩時間)。 定時後、使用しないエリア消灯。 継続実施。	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
22	レ	GHG排出	大阪本社・ 軸本ビル・ 国分本館・ 国分研修セン ター	コード(5113) パソコン機器	離席時、パソコンの蓋を閉じる。 退社時、パソコンのコンセントを抜く。 継続実施。	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
23	レ	GHG排出	大阪本社・ 軸本ビル・ 国分本館・ 国分研修セン ター	コード(5111) 空調設備	夏(28℃)、冬(18℃)の設定温度を維 持管理して空調の使用電力削減。 継続実施。	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
24	レ	GHG排出	国分研修セン ター	コード(5111) 空調設備	空調機3台を高効率空調機に更新 (12t-CO <sub>2</sub> 削減)	28 年度 ～ 28 年度
		人工排熱				
		平準化				

## 2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				

---

**(3)**その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	名古屋市東区東桜一丁目5番7号	氏名	J-net レンタリース株式会社 代表取締役 對馬 正幸
特定事業者の主たる業種		95 その他のサービス業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		自動車賃貸借業（レンタカー・自動車リース）大阪府内3店舗		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	617 t-CO <sub>2</sub>	0 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	617 t-CO <sub>2</sub>	0 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	2.8 %	-14.2 %	100 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	0 %	0 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>平成28年3月より株式会社ジーライオンレンタリースに府内の全事業を譲渡した為、本報告の対象となる事業所及び車両が無くなりました。</p>
---

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

車両の運行方法はレンタカー利用者に起因する為、保有車両の代替時に低燃費・低公害車を積極導入し、温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいく。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG 排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG 排出	全事業所	コード (2121)  保有車両の入れ替え	保有車両の入れ替えにおいて低燃費車両を積極導入し、それによりGHGガス排出及び人工排熱の低減を図る。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府枚方市招提田近2-4	氏名	ジェイフィルム株式会社 大阪工場 工場長 児玉 栄司
特定事業者の主たる業種		18プラスチック製品製造業（別掲を除く）		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主としてプラスチックフィルムの製造、販売を行っており全国に本社及び5工場があり、大阪府内では1工場のみである。大阪工場においてはラミネートフィルムの製造、販売を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 28 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	5,287 t-CO <sub>2</sub>	5,717 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,639 t-CO <sub>2</sub>	6,081 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (30 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	6.7 %	-2.4 %	-8.2 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	-2.5 %	-7.9 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>第2年度は削減率-8.2%と基準年度より悪化してしまいましたが、基準年度(平成26年度)は建屋の老朽化対応工事を実施し、生産設備の稼働台数を制限しており、平成28年度の生産量は基準年度比118.7%と増加したため、エネルギー使用量も増加し、温室効果ガス排出も増加したが、増加量は8.2%に抑えることができた。また短納期、小ロット化により一部設備の土日稼働により共有設備(ボイラー、エアーコンプレッサー、冷凍機、空調設備等)の非効率運転によりエネルギー使用量が増加した。</p>	
---	--



◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

・工場長を本部長とする省エネルギー管理体制を組織し、定期的に環境会議の場において、対策の進捗状況を報告し、現状改善等を検討するとともに職制を通じ、事業場作業員全員に依る活動を継続していく。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	大阪工場	コード (0)	老朽化したガス吸収式冷温水機の更新 (年間 1 t-CO <sub>2</sub> を削減) ⇒H29年度実施予定	28 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2		GHG排出	大阪工場	コード (0)	老朽化した事務所の空調機を効率の高い空気調和設備に更新する。(工場用空気調和設備 年間 1 t-CO <sub>2</sub> を削減) ⇒H29年度実施予定	28 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
3		GHG排出	大阪工場	コード (0)	事務所棟の照明器具を一部LEDに更新する。(事務所照明器具 年間 1 t-CO <sub>2</sub> を削減) ⇒H29年度実施予定	28 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
4		GHG排出	大阪工場	コード (0)	平成26年度後半に(平成27年より) 導入したESCO事業により温暖化ガスの排出量削減 (年間 350 t-CO <sub>2</sub> 削減) ⇒継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市中央区道修町3-1-8	氏名	塩野義製薬株式会社 代表取締役社長 手代木 功
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		医薬品などの製造・販売		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	39,277 t-CO <sub>2</sub>	38,812 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	42,447 t-CO <sub>2</sub>	41,885 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	4.1 %	0.1 %	1.3 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	-0.1 %	1.4 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (延床面積・自動車台数)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	
<p>省エネ法の届出様式に示された計算方法(事業者全体の「エネルギーの使用に係る原単位」の算出が難しい場合は、「エネルギーの使用に係る原単位の対前年度比の寄与度の合計値」を対前年度比としてもよい)に準じ、事業所毎の床面積による原単位、自動車台数による原単位の対基準年度比と、CO<sub>2</sub>排出量構成割合による寄与度を乗じ、それらの合計値を対基準年度比として設定した。</p>	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>エアコンの更新時に高効率機器を選定するとともに、空調機の運転時間、外灯点灯時間の見直しや、照明器具のLED化、冷凍機運転制御の効率化、熱回収装置の導入などにより、エネルギーの使用を抑制した。また、摂津工場において事業の収束による施設の休止や製造委託品の進展による生産量の減少によりエネルギー使用が減少し、結果として原単位は基準年度に比べ、1.3%減となった。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

当社では、適正な環境管理を行うため、生産、研究に携わる4事業所およびその構内子会社においてISO14001を一括で認証取得している。また、上席執行役員を統括環境責任者とするシオノギグループ全体の環境管理組織を設置するとともに、下部組織として省エネ委員会を設置し、CO2排出量・原単位の目標設定、計画、進捗管理とその評価などを定期的実施し、省エネ、CO2削減を推進している。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出	摂津工場	コード(1214) コージェネ レーション設 備の運転	電力のピークを抑制するためコージェネ レーション設備を運転する。 (600kWのカット) ⇒27年度実績600kWカット済。	27 年度
	人工排熱				29 年度
	平準化				
2	GHG排出	摂津工場	コード(1113) 運転台数の集 約	クレーン等の搬送設備の休止に併せ、変 圧器2台運転から1台運転に集約化。 (削減量：電力量12千kWh/年, 6t-CO2/ 年)	27 年度
	人工排熱				27 年度
	平準化				
3	GHG排出	摂津工場	コード(5221) 高効率ボイラ への更新	ボイラ(2台)を高効率タイプに更新す る(削減量：電力量16千kWh/年, ガス4千 m3/年, 18t-CO2削減/年) ⇒削減量：電力量16千kWh/年, ガス4千	27 年度
	人工排熱				27 年度
	平準化				
4	GHG排出	摂津工場	コード(1113) 運転時間の削 減	有圧換気扇(411棟他)の終夜運転から 必要時運転化に切替え、過剰運転を抑制 する。(削減量：電力量5千kWh/年, 3t- CO2削減/年)⇒削減量：5千kWh/年, 1t-	27 年度
	人工排熱				27 年度
	平準化				
5	GHG排出	摂津工場	コード(1218) LED器具に更 新	照明器具のLED化(207棟、705棟) (削減量：電力量75千kWh/年, 39t-CO2削 減/年) ⇒削減量：電力量75千kWh/年, 22t-CO2/ 年	27 年度
	人工排熱				27 年度
	平準化				
6	GHG排出	摂津工場	コード(1113) 外灯点灯時間 の削減	構内外灯の点灯2時間/日の節電する。 (削減量：電力量5千kWh/年, 3t-CO2/年) ⇒削減量：5千kWh/年, 1t-CO2/年で完了 済。	27 年度
	人工排熱				27 年度
	平準化				
7	GHG排出	摂津工場	コード(1113) 空調機運転時 間の削減	セントラル空調連動運転中の室内型空調 機をローカル発停化し、運転時間を抑制 する(削減量：電力量79千kWh/年, 41t- CO2/年)	27 年度
	人工排熱				27 年度
	平準化				
8	GHG排出	摂津工場	コード(5221) 高効率空気圧 縮機への更新	空気圧縮機(2台)高効率タイプに更新す る。(削減量：電力量75千kWh/年, 39t- CO2/年) ⇒削減量：62千kWh/年, 19t-CO2/年で完	27 年度
	人工排熱				27 年度
	平準化				
9	GHG排出	摂津工場	コード(1113) 空調機運転時 間の削減	生産調整に伴い空調機(6系)運転時間を 抑制する。(削減量：電力量100千kWh/年 の削減, ガス80千m3/年, 235t-CO2)	28 年度
	人工排熱				28 年度
	平準化				
10	GHG排出	摂津工場	コード(5221) 高効率エアコ ンへの更新	エアコン(3台)を高効率タイプに更新す る。(削減量：電力量29千kWh/年, 15t- CO2) ⇒削減量：9千kWh/年, 3t-CO2/年で完了	27 年度
	人工排熱				27 年度
	平準化				
11	GHG排出	摂津工場	コード(5221) 高効率エアコ ンへの更新	エアコン(約12台)を高効率タイプに更 新する。(削減量：電力量60千kWh/年の 削減)	28 年度
	人工排熱				28 年度
	平準化				

12	レ	GHG排出	摂津工場	コード(5221) 熱回収による 高効率プロセス化	熱回収装置の導入による高効率プロセス化 (増減量: 電力量171千kwh/年増, ガス78千m3/年削減, 89t-CO2/年削減)	28 年度
	レ	人工排熱				28 年度
		平準化				28 年度
13	レ	GHG排出	摂津工場	コード(5221) 運転制御の改善	冷凍機(2台)の台数運転制御性を改善し、過剰運転を抑制する。 (削減量: 電力量85千kwh/年、44 t-CO2/年)	28 年度
	レ	人工排熱				28 年度
		平準化				28 年度
14	レ	GHG排出	摂津工場	コード(1113) ユーティリティ供給の縮小	事業終息に伴うユーティリティ供給の縮小 (削減量: 電力量921千kwh/年, ガス26千m3/年、540t-CO2/年)	28 年度
	レ	人工排熱				28 年度
		平準化				28 年度
15	レ	GHG排出	摂津工場	コード(5221) 高効率エアコンへの更新	エアコン(約10台)を高効率タイプに更新する。(現時点で削減量などは未試算)	29 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				29 年度
16	レ	GHG排出	医薬研究センター	コード(1218) 照明器具更新	蛍光灯安定器約900台を高効率機に更新する<第一期工事> ※予算の都合で1年先送り (次年度以降 年間 22t-CO2 削減)	30 年度
	レ	人工排熱				30 年度
		平準化				30 年度
17	レ	GHG排出	医薬研究センター	コード(1218) 照明器具更新	蛍光灯安定器約700台を高効率機に更新する<第二期工事> ※予算の都合で1年先送り (次年度以降 年間 17t-CO2 削減)	31 年度
	レ	人工排熱				31 年度
		平準化				31 年度
18	レ	GHG排出	医薬研究センター	コード(1215) 変圧器更新	SP2棟の変圧器6台を高効率器に更新 (年間 8t-CO2 削減)	29 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				29 年度
19	レ	GHG排出	医薬研究センター	コード(1113) 空調運転時間の削減	SP4-4F北 夜間休日の空調停止 ※停止可能エリアについて (年間 138t-CO2削減)	28 年度
	レ	人工排熱				28 年度
		平準化				28 年度
20	レ	GHG排出	医薬研究センター	コード(1113) 空調運転時間の削減	SP4-4F南 夜間休日の空調停止 ※停止可能エリアについて (年間 138t-CO2削減)	29 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				29 年度
21	レ	GHG排出	医薬研究センター	コード(1215) 熱源設備更新	SP1棟ヒートポンプ2台を高効率機に更新 (年間 550t-CO2削減)	30 年度
	レ	人工排熱				30 年度
		平準化				30 年度
22	レ	GHG排出	摂津工場	コード(1218) 照明器具更新	504棟, 603棟照明のLED化(電力121千wh削減)	29 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				29 年度
23	レ	GHG排出	摂津工場	コード(5221) 運転制御の改善	208棟ボイラー台数制御の再設定による効率運転化(ガス11千m3削減)	29 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				29 年度
24	レ	GHG排出	摂津工場	コード(1113) 空調運転時間の削減	207棟生産調整による空調機の期間停止 (電力38千kwh・ガス35千m3削減)	29 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				29 年度

## 2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	本社 江坂営業所 長居営業所	コード(2121) 低排出ガス車の導入	新規導入車は、ハイブリッド車を導入していく。	27 年度
	レ				人工排熱

---

**(3)**その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府豊中市名神口 1丁目10番1号	氏名	敷島製パン(株) 大阪豊中工場 工場長 加藤 信彦
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		食パン・菓子パン製造業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	12,257 t-CO <sub>2</sub>	11,068 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	12,933 t-CO <sub>2</sub>	11,690 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
	レ	削減率(原単位ベース)	3 %	1.6 %	3.2 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	1.4 %	3.1 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産高金額)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>9月にミキサー冷却用冷凍機を電気式からガス式冷凍機に変更した結果原油換算値にて<b>20.2KL</b>の削減効果がでている。また、11月に圧力変動が大きい箇所のコンプレッサーを増設・能力低下機をオーバーホールし圧力制御の変更を行なった結果<b>41KL</b>の削減効果がでている。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

各工場においてエネルギー管理者を中心に、月1回省エネ会議を開催し省エネパトロール等によるエネルギー削減項目の抽出と改善を実施。夏季における全社をあげての省エネキャンペーンによる省エネ意識の向上を推進している。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	大阪豊中工場	コード (1216) 空調機更新	空調機更新によるエネルギー削減 ⇒H29年度4台実施予定	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	大阪豊中工場	コード (1215) 冷凍機更新	冷凍機更新によるエネルギー削減 ⇒H28年度1台実施, H29年度3台実施予定	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	大阪豊中工場	コード (1113) コンプレッサー設定圧力	コンプレッサー設定圧力の見直し及び漏れ改善によるエネルギー削減 ⇒H28年度コンプレッサー2台更新・エアールール箇所72箇所修理	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	大阪豊中工場	コード (1211) ボイラー更新	ボイラー更新によるボイラー効率向上 ⇒H29年度2台実施予定	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	大阪豊中工場	コード (1218) LED照明導入	40W照明のLED化による省エネ ⇒H28年度12箇所取替	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	大阪豊中工場	コード (1113) 各運転方法による省エネ	各運転方法の変更による省エネ ⇒H28年度1件変更	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	大阪豊中工場	コード (2113) エコドライブの推進	テレマックスサービスによる急発進・急加速・速度超過の抑制 ⇒H28年度実施済	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	茨木市南目垣 2-2-1	氏名	株式会社 システム 代表取締役社長 井土 市松
特定事業者の主たる業種		70物品賃貸業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		車両レンタル業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	1,888 t-CO <sub>2</sub>	1,875 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	1,888 t-CO <sub>2</sub>	0 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	8.7 %	0.7 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	0 %	0 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

新車導入 ユーザーへ低燃費講習啓蒙	
-------------------	--



◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

--

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度
	人工排熱				～
	平準化				年度

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度
	人工排熱				～
					年度

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市東淀川区小松2-17-45	氏名	株式会社 資生堂 大阪工場 工場長 両角 浩人
特定事業者の主たる業種		32 その他の製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		仕上・皮膚用化粧品製造業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	5,153 t-CO <sub>2</sub>	5,771 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,675 t-CO <sub>2</sub>	6,374 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ 削減率(原単位ベース)	3.1 %	3.1 %	3.9 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	3.3 %	3.6 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産数量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 恒温槽老朽化更新 (0.2 t-CO<sub>2</sub>)</li> <li>・ 設備用照明をLEDに更新 (0.4 t-CO<sub>2</sub>)</li> <li>・ 場内各所空調運転時間見直し (2.5 t-CO<sub>2</sub>)</li> <li>・ 純水製造装置工程見直しによる蒸気使用量削減 (1.0 t-CO<sub>2</sub>)</li> <li>・ 給湯栓タイマー設置による給湯使用量削減 (28.0 t-CO<sub>2</sub>)</li> </ul>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境対策に取り組むためISO14001を1999年3月認証取得し現在に至っています。</li> <li>・工場長をトップとする省エネ専門部会を設置し、毎月施策の進捗状況を確認し、都度改善などを検討すると共に従業員への啓発活動を実施し本体制を継続していきます。</li> </ul>
--

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1216) 空気調和設備 の更新	老朽空調機を更新する際は省エネルギー タイプの物を選定し、更新する。 (年間 54t-CO2 削減) 【平成28年度一部実施済 (2t-CO2削減)】	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1125) 蒸気系統配管 類更新及び蒸 気配管保温増 強	老朽蒸気配管を更新の際、放熱ロス等を 低減する。また、保温を見直し、放熱ロ スを低減する。 (年間 14t-CO2 削減) 【平成27年度実施済】	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1215) 真空ポンプの 更新	生産用真空ポンプをインバータ仕様へと 更新する。 (年間 9t-CO2 削減) 【平成27年度実施済】	27 年度 ～ 27 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1218) 照明器具の更 新	照明器具を省エネルギータイプに更新す る。 (年間 13t-CO2 削減) 【平成32年に工場閉鎖のため、経営判断 により中止】	27 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪工場	コード(2126) 輸送回数の削 減	積載量を最大限利用し、輸送回数を削減 する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	大阪工場	コード(2114) 適正な点検に おける燃費の 向上	点検等で適正な消耗部品 (フィルター・ オイル等) の交換を実施し、燃費の向上 を図る。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	大阪工場	コード(2121) エコカーの導 入	28年度追加施策としてエコカーの導入 (2台) を行った。	28 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府堺市堺区老松町3丁77番地	氏名	株式会社 シマノ 代表取締役社長 島野 容三
特定事業者の主たる業種		31輸送用機械器具製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		・主として自転車部品と釣具の製造・販売を行っています。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
平成	27年	4月	1日	～	平成30年3月31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量		
区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	18,573 t-CO <sub>2</sub>	18,101 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	20,779 t-CO <sub>2</sub>	19,956 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況					
区分		削減目標 (29年度)	第1年度 (27年度)	第2年度 (28年度)	第3年度 (0年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0%	0%	0%	0%
	レ 削減率(原単位ベース)	3%	-0.7%	-1.4%	0%
削減率(平準化補正ベース)		—%	1%	0.2%	0%
吸収量による削減率		0%	0%	0%	0%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産売上高(5部門合計))
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・本社工場(堺市)は平成25年度の建替えに伴い、省エネ設備が導入されており、新たな設備改善の余地が少なくなっています。</li> <li>・また、平成27年度から生産量が減少しており、エネルギー使用効率の低下が継続しています。</li> <li>・現在、設備運用の改善ならびに調整を積極的に行い、更なるエネルギー使用合理化方策を通じて、温室効果ガスの排出抑制を検討しています。</li> </ul>	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<ul style="list-style-type: none"> <li>環境マネジメントシステム（IS014001）の推進体制に基づき抑制対策に取り組んでいます。</li> <li>定期的に省エネ推進部会を開催し、目標の設定、実施計画の立案等について検討すると共に、エネルギー使用状況、計画の進捗状況等について報告しています。</li> <li>本社新工場の省エネ対策は省エネ推進部会を中心にして計画しました。</li> <li>平成21年9月エコ通勤優良事業所の認定を受け、以後継続してエコ通勤活動を推進しています。</li> </ul>
---

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本 社	コード (1218) 外光の有効利用	工場エリアへの外光（自然光）の積極的利用 継続実施中 (年間 57 ton-CO2削減予定)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	本 社	コード (1216) 空調設備の運用改善	工場エリア空調設備の運用改善 (外気導入による空調負荷の軽減) 継続実施中 (年間 259 ton-CO2削減)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	本 社	コード (1127) FEMSの活用	FEMSの活用による 空気調和設備、照明設備等の運用徹底 継続実施中 (年間 16 t-CO2削減)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	本 社	コード (1126) 圧縮空気圧力の見直し	圧縮空気圧力の減圧 (供給圧力の見直し) H27年度新規計画、継続実施中 (年間 10 t-CO2削減)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	本 社	コード (1125) 蒸気配管からの放熱ロス改善	蒸気配管の保温強化 (配管からの放熱量の抑制) H27年度新規計画、継続実施中 (年間 132 t-CO2削減)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	本 社	コード (1126) ポンプ流量のインバーター制御	既存ポンプのインバーター化 (搬送動力の適正制御) H27年度新規計画、継続実施中 (年間 47 t-CO2削減)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	本 社	コード (1126) 圧縮空気配管の漏れ改善	圧縮空気配管の漏れ修理 (配管漏れの低減) H27年度新規計画、継続実施中 (年間 24 t-CO2削減)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	本 社	コード (1123) ボイラー排熱の回収	ボイラーの給水予熱 (排熱の回収、有効利用) H27年度新規計画、継続実施中 (年間 18 t-CO2削減)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	本 社	コード (1111) 推進体制の整備	省エネ推進委員会を設置し、定期的に省エネ推進を検討し、排出量を抑制 継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	本 社	コード (1112) エネルギーの使用に関するデータ管理	エネルギー管理標準を遵守し、エネルギーの使用状況の管理を通じた、排出量の抑制 継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
11	レ	GHG排出	本 社	コード (1113) マンシング設備他の週末電源停止運用	マンシング設備およびEWC・EDMの週末電源停止運用 ・切削設備の加工終了後の電源停止運用 (年間 75 t-CO2削減)	28 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

12		GHG排出	本 社	コード (1218) 不要箇所の照 明消灯	更なる不要箇所の照明消灯の徹底 (年間 61t-CO2削減)	28 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本 社	コード (2121) ハイブリット 車の購入	ハイブリット車の購入(1台購入) 次回乗り換え時に実施 (年間 4 t-CO2削減)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	本 社	コード (2122) 公共交通機関 の利用促進	出張等は公共交通機関を利用 継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	本 社	コード (2122) 自転車通勤の 推奨	自転車通勤が可能な社員に自転車通勤に よるエコ通勤活動を奨励 継続実施中 (年間 3.5 t-CO2削減)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
4	レ	GHG排出	本 社	コード (2123) エコドライブ の推進	急発進、急加速を控えたエコドライブの 推進 継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策

<p>環境教育への協力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・堺市の小学校に対し、弊社社員が環境教育のサポートを行っています。</li> </ul> <p>環境負荷低減への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・弊社は、「シマノグリーンプラン」を策定し、エコロジカルで環境負荷の低い製品づくりを行っています。</li> <li>・平成26年に環境を配慮した本社工場の建て替えが完了しました。今後は設備運用の改善で更なる温室効果ガスの排出量削減を図ります。</li> </ul>

# 実績報告書

届出者	住所	大阪府堺市堺区匠町1番地	氏名	シャープ株式会社 代表取締役社長 戴 正呉
特定事業者の主たる業種		29電気機械器具製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		プロダクトビジネス（デジタル情報家電、健康・環境、エネルギーソリューション、ビジネスソリューション）、デバイスビジネス（液晶、電子デバイス）の製造・販売等を行っており、大阪府内には生産事業所2ヶ所、非生産事業所7ヶ所を有しています。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	50,681 t-CO <sub>2</sub>	35,243 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	56,024 t-CO <sub>2</sub>	38,871 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	4.5 %	14.6 %	30.5 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	15.2 %	30.7 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	
<非該当>	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

堺事業所は生産量が縮小(前年度比78%)したことによりエネルギー消費量も減少(原油換算3,157 kL、前年度比84%)した。 旧本社地区(田辺北・田辺南・西田辺・別館)は売却等により9月末をもって閉鎖等したため原油換算1,261 kL(前年度比51%)に減少した。	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<p>・主要事業所（八尾・堺）ではISO14001に基づく環境マネジメントシステムを構築し、外部認証を取得しています。</p> <p>・これらの事業所では推進体制を明確にして温室効果ガスの削減について、目標値・施策の計画と実績管理を行っています。</p>
<p>・旧本社地区（田辺北・田辺南・西田辺・別館）、藤井寺、南大阪、八尾跡部では、本社の方針・指導に基づき、データ把握やフィードバック、啓発などに取り組んでいます。</p>

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	GHG排出	八尾	コード(1218) 照明設備の改善	・蛍光灯器具からLED器具への更新	27年度 ～ 29年度
	人工排熱				
	平準化				
2	GHG排出	八尾	コード(1222) 太陽光発電設備の設置	・太陽光発電設備の設置	27年度 ～ 29年度
	人工排熱				
	平準化				
3	GHG排出	八尾	コード(1216) 空調設備の更新	・老朽化業務用エアコンの省エネ性の高い機器への更新	27年度 ～ 29年度
	人工排熱				
	平準化				
4	GHG排出	八尾	コード(1215) 生産設備・技術実験設備の改善	・更新・改修時に省エネ性に配慮した機器の導入	27年度 ～ 29年度
	人工排熱				
	平準化				
5	GHG排出	八尾	コード(5231) 電力監視装置による電気使用管理	・電力監視装置による電気使用状況管理	27年度 ～ 29年度
	人工排熱				
	平準化				
6	GHG排出	堺	コード(1217) 必要性の見極め	・低頻度のエスカレータの休止 ・部材や備品の倉庫で換気停止による環境測定を実施し、影響なければ停止	27年度 ～ 29年度
	人工排熱				
	平準化				
7	GHG排出	堺	コード(1113) 設備稼働の最適化	・生産装置停止に伴い、空調機器、排気ファンの停止や照明消灯	27年度 ～ 29年度
	人工排熱				
	平準化				
8	GHG排出	田辺北ビル 田辺南ビル	コード(1199) 不要エリアの抑制	・エネルギー消費量の見直し ・平成27年度：369t-CO2 ・田辺北ニトリへ売却(H28.12) ・田辺南無人化状態(再開発検討)	27年度 ～ 29年度
	人工排熱				
	平準化				
9	GHG排出	田辺北ビル 田辺南ビル	コード(1211) ガス熱源機器の更新	・老朽化のガス吸収式冷熱源発生装置の更新による燃焼効率の向上 ・平成27年度実績なし ・田辺北ニトリへ売却(H28.12) ・田辺南無人化状態(再開発検討)	27年度 ～ 29年度
	人工排熱				
	平準化				
10	GHG排出	藤井寺	コード(1216) 省エネ機器への入替	・省エネ効果の高い冷暖房機器への入替	27年度 ～ 29年度
	人工排熱				
	平準化				



11	レ	GHG排出	藤井寺	コード(1218) 照明設備	・省エネ効果の高い照明器具への入替 水銀灯からLED照明灯へ交換	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
12	レ	GHG排出	藤井寺	コード(1199) 照明・OA機器の管理強化	・OA機器、照明等 不使用時の電源 OFFの励行	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
13	レ	GHG排出	藤井寺	コード(5231) デマンド監視装置による ピークカット	・デマンド監視装置活用による運転管理	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
14	レ	GHG排出	南大阪	コード(1199) 照明・OA機器の管理強化	・昼休み時間における消灯とパソコン等 のOA機器の電源OFFの励行	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
15	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1113) 空調設備の運用改善	・空調温度の適正化と運転管理強化 ・エアコンフィルターの管理強化	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
16		GHG排出	全ての事業所	コード(5113) 省電力機能の活用	・パソコンの省電力モード活用の徹底	27年度 ～ 29年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
17		GHG排出	全ての事業所	コード(5113) 稼働台数の適正化	・複写機、プリンター、ファクシミリの 集約化による稼働台数の適正化	27年度 ～ 29年度
		人工排熱				
	レ	平準化				

## 2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(2114) 運行前点検の 推進	・運行前点検記録簿による点検整備の 推進	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(2123) アイドリング ストップ等の エコ運転の推 進	・ふんわりアクセル、アイドリング ストップの推進	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(2121) 低燃費車の買 換え推進	・ハイブリッドカー、EV車の導入推進	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
4	レ	GHG排出	八尾	コード(2122) エコ通勤の実 施	・自動車通勤の禁止および公共交通機関 利用による移動の推進	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
5	レ	GHG排出	八尾	コード(2125) モーダルシフ トの推進	・JRコンテナと海運輸送の利用拡大	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
6	レ	GHG排出	八尾	コード(2225) 積載効率の向 上	・車両ごとの最適積載量の把握により 積載率の向上及び輸送回数の削減を 図る	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				

7	レ	GHG排出	南大阪	コード (2223) 輸送方法の効率化	・ 関係部門との連携・調整による入出庫 貨物の効率的な運用	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
8	レ	GHG排出	南大阪	コード (2125) モーダルシフトの推進	・ J R コンテナの利用拡大	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
9	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2222) 物流業務の分社化	・ 2016年10月 鴻海グループの物流事業 会社と合弁で設立したシャープジャスダ ロジスティックス社を設立、物流業務を 分社化	28 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

**(3)その他の抑制対策**


# 実績報告書

届出者	住所	大阪市淀川区宮原4-3-39 大広新大阪ビル3F	氏名	株式会社ジャパンビバレッジウエスト 代表取締役 砂田 良人
特定事業者の主たる業種		58飲食料品小売業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		自動販売機により各種食品飲料の販売 グループとしては全国エリア展開しており、当社は近畿地区および北陸地区においてサービスを行っている。うち大阪府内では1企画部・5支店を展開している。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	1,449 t-CO <sub>2</sub>	1,395 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	1,492 t-CO <sub>2</sub>	1,442 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	1 %	8.8 %	3.8 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	8.4 %	3.4 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>事業所の開閉門時間への継続意識付けおよび、巡回精査・活動エリア明確化による走行距離短縮への意識付けにて、改善は進んでおりますが、削減率では前年を上回ることができませんでした。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

・全社的に温暖化対策に取り組むため環境マネジメントシステムを導入しており、府内6事業所においても、2000年12月21日にISO14001を取得しております。  
 ・車両においては、フォークリフトを含め全てリースにて導入し、管理はホールディングスにて一元管理しており、車種によりあるいは経済動向により流動的ではありますが、定期的に車両入替を実施しております。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(5111) 空調の温度管理	夏期28℃・冬期22℃の空調温度設定順守 空調使用時間の短縮	27年度
	レ	人工排熱				29年度
		平準化				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1199) 電気使用量の削減	昼休みの消灯及びPCオフ実施・不在時のPCオフ・事務機器の低電力モードの設定	27年度
	レ	人工排熱				29年度
		平準化				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(5131) 環境推進体制の整備	所属長のもとエコリーダー配置・エコリーダーによる所内一般環境研修の実施	27年度
	レ	人工排熱				29年度
		平準化				
4	レ	GHG排出	業務部	コード(5131) 環境推進体制の整備	環境統括として事務局を設置し、環境責任者の元、各事業所における環境教育・指導の実施	27年度
	レ	人工排熱				29年度
		平準化				
5	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(5131) 環境推進体制の整備	終業時間において早期閉門目標時間を設定し、事業所における電気使用時間全体を削減	27年度
	レ	人工排熱				29年度
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(2111) 環境全般の責任者配置	エコリーダーの配置 定期的環境研修の実施	27年度
	レ	人工排熱				29年度
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(2112) 燃費データの管理	車両毎の月間走行距離・月間給油量の管理実施 車両の各項目におけるデータベース管理の実施	27年度
	レ	人工排熱				29年度
3	レ	GHG排出	業務部	コード(2121) 低燃費車両の導入	事務局としてリース車両入替え時における代替車両選定についてより低公害と思われる車両の導入推進の指導及び実施	27年度
	レ	人工排熱				29年度
4	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(2123) アイドリングストップの継続実施	アイドリングストップの掲示板を事業所内駐車場に配備し啓蒙並びに推進。保有車両にアイドリングストップ・ステッカーを貼付し常時アイドリングストップの意識高揚を図り実施	27年度
	レ	人工排熱				29年度

5	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2126) 効率的なルート巡回の確立	全社をあげて、平準巡回の確立及び効率巡回の推進を実施	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

**(3)その他の抑制対策**


# 実績報告書

	届出者住所	東京都千代田区丸の内三丁目3-1	氏名	ジャパンリアルエステイト投資法人 執行役員 中島 洋
特定事業者の主たる業種		69不動産賃貸業・管理業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に、オフィスビルの不動産賃貸業務、ビル設備管理業務		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	7,659 t-CO <sub>2</sub>	6,797 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	8,769 t-CO <sub>2</sub>	7,690 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	19.5 %	21.7 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	19.8 %	22.6 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (建物延床面積×テナント稼働率(主な事業所)) (温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	
--	--

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

空調・熱源機器の更新により、熱源負荷が減少したもの。主な事業所のテナント稼働率が上昇した事。また堺筋本町ビルにおいて基準年度以降に電力購入先を排出係数の低い電力会社に変更したものによるものと考えられる。	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

新藤田ビル防災センターの所長を責任者とし省エネルギー対策及びそれに伴う工事等について毎月の定例会を開き本体制を継続していきます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	新藤田ビル	コード (1111)	テナント様へ事務室内の適正な空調温度設定と軽装勤務のお願いを実施	28 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	新藤田ビル	コード (1113)	B2階駐車場換気設備デリバントファン4台運転停止 (年間16t-CO2を削減)	28 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	新藤田ビル	コード (1113)	電気室パッケージ空調1台停止 (年間31t-CO2を削減) (4月～11月)	28 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	新藤田ビル	コード (1113)	共用部空調用AHU-5運転停止 (年間7t-CO2を削減) (4月～6月、11月～3月)	28 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	新藤田ビル	コード (1113)	防災センター空調機停止 (年間28t-CO2を削減) (12月～3月)	28 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	新藤田ビル	コード (1218)	共用部建物ライトアップ照明停止 (年間6t-CO2を削減)	28 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	新藤田ビル	コード (1113)	トイレ内手洗い用電気温水器停止 (年間12t-CO2を削減) (7月2日～9月7日)	28 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1		GHG排出		コード		～ 年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府茨木市高浜町3-37	氏名	(株) 昭 建 大阪アスコン工場 工場長 森合 晃次
特定事業者の主たる業種		17石油製品・石炭製品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に舗装工事、下水道工事、アスファルト合材の製造、販売及び産業廃棄物中間処理などを行っております。アスファルト合材を製造するプラントは全部で4工場あり、大阪府内には1工場があります。また、滋賀県内においては湖南市と米原市の2ヶ所でメガソーラー発電所を設置しています。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	3,565 t-CO <sub>2</sub>	3,779 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,741 t-CO <sub>2</sub>	3,926 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	24.1 %	-6.1 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	24.6 %	-5 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>平成28年度の温室効果ガス削減率は-5%となりました。添付資料より事務所での電力使用量は削減できたのに伴い、温室効果ガスも7.8%削減できましたが、昨年より出荷数量が増加した為、施設での都市ガス、電力使用量が増加し、全体として温室効果ガスの排出量は昨年より増加しました。自動車のガソリン使用量においても、当工場の工事部門での工事が増加し、管理する自動車が増えたので、温室効果ガスの排出量は増加しました。</p>
--



◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

本工場では2000年にISO14001を認証取得して以来15年間にわたって環境マネジメントシステムを継続的に運用しております。これにより管理規定・手順書による工場設備の適切な運転、省エネの推進、及び工場全体での省資源、省電力の活動、また従業員への環境教育・訓練の実施、騒音振動測定の実施等、省エネルギーのみならずあらゆる環境に関する活動を行っております。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪アスコ ン工場	コード (1113) ISOのEM Sの運用	バージンバーナー及びリサイクルバー ナーに使用する都市ガスの使用量を年 1.7%削減する。(年間11.3%増加した結 果 210.7 t-CO2 増加)	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	大阪アスコ ン工場	コード (1113) ISOのEM Sの運用	工場の事務所で使用する電力の使用量を 年1%削減する。(年間7.8%削減した結 果 6.8 t-CO2 減少)	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	大阪アスコ ン工場	コード (1113) ISOのEM Sの運用	工場のバージンプラントで使用する電力 の使用量を年1%削減する。 (年間18.5%増加した結果 60.0 t-CO2 増 加)	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	大阪アスコ ン工場	コード (1113) ISOのEM Sの運用	工場のリサイクルプラントで使用する電 力の使用量を年1%削減する。 (年間21.7%削減した結果 23.5 t-CO2 減 少)	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪アスコ ン工場	コード (2123) エコドライブ の推進	工場で使用する全自動車エコドライブ を実施することでのガソリン使用量を年 1%削減する。(年間 25.0%増加した結果 11.6 t-CO2 増加)	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市旭区大宮5-16-1	氏名	学校法人常翔学園 理事長 久禮 哲郎
特定事業者の主たる業種		81学校教育		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		◇3大学、2高校、2中学に学生・生徒約2万3千人が集う総合学園である。大阪工業大学：[大宮キャンパス(大阪市)、枚方キャンパス(枚方市)]、摂南大学：[寝屋川キャンパス(寝屋川市)、枚方キャンパス(枚方市)]、広島国際大学：[東広島キャンパス(広島市)、呉キャンパス(呉市)、広島キャンパス(広島市)]、常翔学園高等学校・中学校(大阪市)、常翔啓光学園高等学校・中学校(枚方市)		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	16,821 t-CO <sub>2</sub>	15,382 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	18,963 t-CO <sub>2</sub>	17,306 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ 削減率(原単位ベース)	3 %	1.8 %	9.1 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	1.9 %	9.3 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (建物延床面積)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

第2年度に9.1%(平準化補正ベース9.3%)の削減ができました。今後も一層の環境配慮行動の実施・省エネルギー型機器への代替を進め、エネルギー総使用量についても削減に努めていきます。
---

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<p>・法人全体として「省エネルギー推進統括委員会」を、各学校等には「省エネルギー推進委員会」を設置して、組織的に省エネを図ることのできる体制を整備しています。</p> <p>・抑制対策について、学生・生徒・教職員への啓蒙活動を行うとともに、各学校等に省エネルギー点検チェックリストを配布するなど、学園全体で省エネルギーに取り組んでいます。摂南大学では、平成27年1月に「ISO14001」の認証を取得いたしました。</p>
<p>・平成15年より「クールビズ」、平成19年より「ウォームビズ」を実施しています。平成20年からは、環境省主催の「CO2削減/ライトダウン キャンペーン」活動へ参加して抑制対策を行っています。</p>

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1113) 空気調和設備の運転管理改善	冷暖房が過度にならないように設定温度を管理する。冷房中の室温は28℃、暖房中の室温は20℃目途に適切な調整に努める等、エネルギー消費について適正な管理を行う。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1113) 空気調和設備の電力デマンド監視の導入	空気調和設備の電力デマンド監視を実施し、デマンドの抑制・削減を図る。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1113) 昇降機設備の間引き稼働	運用上大きな支障の出ない範囲で昇降機の稼働台数を減らし、エネルギー消費の削減を図る。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1218) 照明設備の間引き点灯	学校環境衛生基準等に基づき適切な学習・教育・研究環境の維持管理に十分留意しながら、適度な照度の範囲で間引き点灯を行う。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1218) 照明設備の電力削減	高効率照明器具への更新、及び人感センサ設置を順次実施し、照明設備の電力削減を図る。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府吹田市芳野町18-23	氏名	昭和化工株式会社 代表取締役社長 小椋 浩之介
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に有機酸及びその塩類、錫化合物、機能性材料、化成品、染料の製造・販売を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 29 )年度
温室効果ガス総排出量	6,311 t-CO <sub>2</sub>	6,788 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,632 t-CO <sub>2</sub>	7,141 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
	レ	削減率(原単位ベース)	3 %	-4 %	-5.6 %
削減率(平準化補正ベース)		-	-4.2 %	-5.8 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産数量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>基準年度に比べ、1) 蒸気の加熱を必要とする開発品目及び錫類の生産数量が増加 2) 冷却工程(冷蔵保存を含む)及び乾燥工程を必要とする開発品目の生産数量が増加 3) エネルギー効率の良い液体製品の生産数量が減少 これらの要因によりエネルギー原単位が悪化した。 一方、省エネに関する取り組みとしては、以下の項目を実施。</p>	
<p>①エコday(ノー残業デー)の継続、②電灯の間引き、③不要箇所の消灯、④帰宅時のコンセントOFF、⑤昼休憩時の消灯 ⑥便座暖房OFF ⑦エアコンの遵守目標温度設定(夏季26℃、冬季21℃)</p>	

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全社的に温暖化対策に取り組むため環境マネジメントシステムを2005年9月に取得した。</li> <li>・社長を最高責任者とし、社長が任命したISO管理責任者の統括の下、環境マネジメントシステムが維持・運用されている。</li> </ul>
--

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社工場	コード (1114) スチームトラップの点検、取り換え	蒸気配管のスチームトラップの不良率を改善し、無駄な蒸気漏れを失くす。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				
2	レ	GHG排出	本社工場	コード (1216) 空気調和設備の運用改善	エアコンの目標設定温度を定め、定期的なフィルターの清掃等、装置を効率良く使用する。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				
3	レ	GHG排出	本社工場	コード (1212) 保温剤の修繕・取付による熱損失の抑制	蒸気配管の保温材修繕・取付 H27年度：有機酸塩類工場の断熱工事実施 (原油換算17kL/年の削減見込)	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				
4		GHG排出	本社工場	コード (5112) 証明の消灯、間引き	不要箇所・不要時の消灯手定及び照明の間引き	27 年度
		人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
5		GHG排出	本社工場	コード (5115) デマンド監視及び負荷調整	デマンド監視及び設定値に近づいた際の負荷調整	27 年度
		人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
6		GHG排出	本社工場	コード (5121) 夏季休暇シフトによるピークシフト	盆休みのシフト (8月3週目から2週目にシフト) によるピークシフト H27年度：実施済み	27 年度
		人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	本社工場	コード (1215) 誘導灯のLED化	蛍光管式誘導灯14台のLED化 H27年度実施済み (原油換算0.6kL/年の削減見込)	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				
8	レ	GHG排出	本社工場	コード (1216) パッケージエアコンの更新	パッケージエアコン7台の更新 H28年度実施済み (原油換算5.6kL/年の削減見込)	28 年度
		人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	本社工場	コード (1215) 曝気ブローアの更新	曝気ブローアの更新 H28年度実施済み (原油換算12kL/年の削減見込)	28 年度
		人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	本社工場	コード (1212) 保温剤の修繕・取付による熱損失の抑制	工場内保温施工による放散熱量の削減 対象：医薬中間体工場、マルチ工場、第一SK工場、第二SK工場 (CO2排出量12t/年削減見込)	29 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				
11	レ	GHG排出	本社工場	コード (1215) メタルハライドランプのLED化	A工場メタルハライドランプをLEDへ更新 メタルハライド屋内10基、屋外3基 →LED屋内10基、屋外2基に更新予定 (CO2排出量11t/年削減見込)	29 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社工場	コード (2123) エコドライブ の推進	不要な荷物の非積載に努め、加減速の少ない運転、アイドリングストップを推進する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	本社工場	コード (2121) 低燃費車の導入	ガソリン車1台をハイブリッド車に変更する。 H27年度：エスハイブリッド車に1台変更済み。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府岸和田市臨海町20-2	氏名	昭和精工株式会社 代表取締役社長 植野 徳仁
特定事業者の主たる業種		31輸送用機械器具製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		自動車部分品・附属品製造		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	5,475 t-CO <sub>2</sub>	5,508 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,839 t-CO <sub>2</sub>	6,064 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	8.195 %	-22.5 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	5.289 %	-26.5 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( 工程生産個数 )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

型番の大型化が進行し1個の品物に係る工数時間が大きくなった為に削減できなかった
---

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

工場長を責任者とする省エネルギー管理組織を組織するとともに、管理標準を作成し、体制を整備した上、省エネルギー等環境保全活動を行っていく。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG 排出	ちきり工場	コード (1113) 圧空使用合理化システムの構築	台数制御	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG 排出	ちきり工場	コード (1126) モーター高効率	新規機械 モーター高効率	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG 排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策




# 実績報告書

届出者	住所	大阪府堺市堺区海山町6丁224番地	氏名	昭和電工株式会社 堺事業所 堺事業所長 水野 正久
特定事業者の主たる業種		23非鉄金属製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<p>昭和電工グループは、有機化学、無機化学、アルミニウムなどさまざまな分野の個性的な技術を活かし、社会の持続的発展にお役に立つ素材や部品を生み出しています。</p> <p>堺事業所は、アルミニウムの板、箔、鋳塊製品を生産し、アルミ地金（インゴット）の溶解鑄造から最終製品の製造まで一貫した事業所です。</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	65,995 t-CO <sub>2</sub>	68,685 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	69,296 t-CO <sub>2</sub>	72,300 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	4 %	9.2 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	3.7 %	9 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>生産量増となったが、停止している連続精製ライン1/3ラインは引き続き停止したまま。生産ラインは生産量増に伴い稼働率向上した為、削減率(原単位)も良化した。平成29年5月からは、停止していた連続精製ラインを稼働し、生産量増に対応するが、稼働により対前年度約10,000(t-CO<sub>2</sub>)増加する為、29年度は原単位が悪化すると想定している。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

堺事業所は、環境マネジメントシステムを導入し、平成13年のISO14001認証取得以来、PDCAにより環境改善活動を継続中です。事業所長を省エネルギー推進体制の責任者とした組織で運営しています。  
 TPM活動の一貫で、コストダウンの個別改善会議を1回/月開催し、活動計画と実施、フォロー、ロス発掘の活動をしています。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱 平準化				
1	レ	GHG排出	大阪支店	コード (1199) オフィスの省エネ	空調設備の適正温度設定の実施 ブラインドの有効利用 引続き継続して実施	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	堺事業所	コード (1199) 構内省エネ巡視の継続的に実施	事業所構内の省エネ巡視を月1回実施し、エネルギーのムダ・ムラの削減を行う。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	堺事業所	コード (1215) 冷却塔送水ポンプINV化	鋳造用冷却水の冷却塔送水ポンプをINV駆動による水中ポンプに変更し、冷却水温度変化に伴う可変速で運転できるようにした。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	堺事業所	コード (1213) 蒸気ドレン回収による省エネ	洗浄装置の乾燥槽での蒸気ドレンが高エネルギー状態で排出されていた。それを小型貫流ボイラの給水タンクへ回収した。 年間 45 t-CO2削減 引続き継続	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	堺事業所	コード (1215) 箔圧延機 圧延回数削減による省エネ	箔圧延機の圧延回数を削減し、工程削減により、エネルギー（電力量）を削減した。 年間 24 t-CO2削減 引続き継続	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	堺事業所	コード (1113) 焼鈍炉の積載効率向上による	焼鈍炉の積載効率向上による積載率95.1%⇒97.2%へ改善する。 年間 7.3 t-CO2削減 引続き継続	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	堺事業所	コード (1213) 蒸気加温からヒートポンプ設備へ代替	純水装置の加熱を蒸気加温からヒートポンプ設備に代替し温室効果ガス排出量削減する。 年間 14.4 t-CO2削減 引続き継続	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
8		GHG排出	堺事業所	コード (5121) 昼休み、始業時の電力分散化	生産工程（3工程）の業務開始時刻を変更し、11:45～12:45の昼休み時間の分散化および業務開始時刻時のピーク電力の分散化を行う。	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	堺事業所	コード (5114) 各職場の冷蔵庫、ポットの使用制限と集約	各職場（管理室、オフィス）で所有している冷蔵庫およびポットの使用を制限し、集約し、稼働台数を抑制する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10		GHG排出	堺事業所	コード (5121) 電気炉の重負荷時間帯のシフト	電気炉の重負荷時間帯を夜間にシフトするよう生産調整をおこなう。	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				

11	レ	GHG排出	堺事業所	コード(1114) 蒸気漏れ・放熱ロス、エア漏れロス削減活動	自主保全活動の一貫として、ロス削減活動を実施、強化した。サーモグラフィを用いてロス発掘の実施事業所のロスマップを作成し見える化ロス削減対策の実施を継続する。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
12	レ	GHG排出	堺事業所	コード(1124) 排ガス冷却循環ポンプのインバータ化	適正流量を見直し、インバータ化し、電力使用量を削減した。 年間 57 t-CO2削減 引続き継続	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
13	レ	GHG排出	大阪支店	コード(5112) オフィスの照明LED化	オフィスの照明をLEDタイプに更新した可能な範囲で、照明の間引きを徹底する。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
14	レ	GHG排出	堺事業所	コード(1114) 蒸気漏れの補修および点検の強化	構内蒸気配管より放熱、蒸気漏れ箇所の補修および点検を引続き実施する。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
15	レ	GHG排出	堺事業所	コード(1114) エア漏れ箇所の補修	構内UTTエア配管からのエア漏れ箇所について点検し、不具合箇所は補修していく。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
16	レ	GHG排出	堺事業所	コード(1123) 燃焼排ガスの排熱回収	精製2次溶解炉排熱回収を設置し、都市ガス原単位を削減する。 平均 9.22kL/月 年間 217 t-CO2削減相当	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
17	レ	GHG排出	堺事業所	コード(1126) 焼鈍炉循環ファン運転見直し	焼鈍炉炉内循環ファンを炉内に不活性ガス充てん時間中の運転周波数を見直し、電力使用量を削減する。50Hz→30Hz 平均 0.77kL/月 年間 19 t-CO2削減相当	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
18	レ	GHG排出	堺事業所	コード(1124) 熱間仕上圧延機冷却水ポンプ流量適正化	熱間仕上圧延機で使用する冷却水流量が過剰供給されていた為、インバータ化により冷却水流量を適正化し電力使用量を削減。 平均 0.70kL/月 年間 17 t-CO2削減相当	28年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
19	レ	GHG排出	堺事業所	コード(1218) 工場構内屋外照明の高効率照明器具へ更新	事業所構内の屋外道路灯のLED化 全99台⇒38台実施済み 2017年 17台実施中 2018年 18台実施計画 2019年 16台実施計画	28年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
20	レ	GHG排出	堺事業所	コード(1218) 工場構内の高効率照明器具へ更新	工場棟内の高天井照明の高効率照明へ更新 順次実施中	28年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
21	レ	GHG排出	堺事業所	コード(1125) 溶解炉の低放射断熱塗装によるロス低減	アルミ溶解炉の外壁を低放射断熱塗装し、放射、伝熱による放熱ロスを低減する。	29年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
22	レ	GHG排出	堺事業所	コード(1124) 焼鈍炉冷却水ポンプ流量の適正運転化	焼鈍工程毎に変化する冷却水必要流量をインバータ化により適正化し、電力使用量を削減する。	29年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
23	レ	GHG排出	堺事業所	コード(1124) 洗浄設備の冷却水ポンプインバータ化	洗浄工程で使用する冷却水流量をインバータを用いて負荷の必要流量変動に追従した運転に変更し、電力使用量を削減する。	29年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度
	人工排熱				～
					年度

(3)その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府堺市堺区塩浜町5番地	氏名	新関西製鐵株式会社 代表取締役 田邊寛隆
特定事業者の主たる業種		22鉄鋼業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		電気炉による製鋼・圧延業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	180,559 t-CO <sub>2</sub>	150,782 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	185,774 t-CO <sub>2</sub>	155,555 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)	
選択	レ	削減率(排出量ベース)	15 %	21 %	16.5 %	0 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	20.5 %	16.3 %	0 %	
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %	

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>基準年度は星田工場の電気炉が稼動しておりましたが、 28年度は星田工場の電気炉が休止していたことが主要因となります。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

社長 → 専務 → 工場長 → 各部長 → エネルギー管理者 → 製造各担当GL → 各部署  
 左記体制をもとに推進していきます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	堺工場 星田工場	コード (1299) 電気炉の集約と電気炉の出鋼量増加	製鋼電気炉を堺工場へ集約	27 年度 ～ 0 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	星田工場	コード (1121) 第2圧延加熱炉の燃料原単位削減	第2圧延工場加熱炉更新 (リジェネ炉導入)	30 年度 ～ 0 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	堺工場	コード (1126) 直引集塵機ファン回転装置の省エネ	直引集塵機のインバーター化	29 年度 ～ 0 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策

--	--	--	--	--	--

# 実績報告書

届出者	住所	大阪市中央区南船場2-7-26 シンセイビル 8階	氏名	新興化学工業株式会社 取締役社長 西田 和彦
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		重油燃焼残渣及び、重油媒などのバナジウムを含有する原料を焙焼、抽出、精製して、バナジウム化合物を製造、販売する。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	7,461 t-CO <sub>2</sub>	7,140 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	7,836 t-CO <sub>2</sub>	7,490 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
	レ	削減率(原単位ベース)	3 %	-26.7 %	-17.5 %
削減率(平準化補正ベース)		-	-26.5 %	-17.4 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( のべ換算生産量 )  
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値としては、V化合物の各工程ののべ生産量、スート各工程ののべ処理量を用い、それぞれのエネルギー原単位を算出し、V化合物に要するエネルギー原単位を基準としてスートののべ処理量を換算し、換算生産量としております。  
なお、基準年度(H26年度)ののべ換算生産量の数値に誤りがありましたので、訂正しました。

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

H27年度ののべ換算生産量がH26年度比で、74.8%と減少した為、設備の運転効率の低下等が発生し、H27年度の前年度比が、H26年度比で削減率が-26.7%となりました。  
H28年度ののべ換算生産量がH26年度比で、81.5%と減少した為、設備の運転効率の低下等が発生し、H28年度の前年度比が、H26年度比で削減率が-17.5%となりました。

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

改正省エネ法の施行に合わせて、本社事務所、尼崎工場のメンバーを加えて全社組織としたエネルギー管理組織の基で「省エネ委員会」を月一度開催し、エネルギーの使用状況、より現状を反映するエネルギー原単位の考え方、従業員への教育・訓練、改正省エネ法の判断基準に基づく管理標準の見直しなどの活動を行ってまいりました。引き続きこの体制を維持・強化して温室効果ガス削減に努めてまいります。

---

全社活動として省エネ対策報告書（計画・実績）による省エネ推進により実施のフォローを行います。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	堺臨海工場 本社	コード (1111) 省エネの推進	全社的なエネルギー管理体制の維持、より良い体制への取組み。 →H28年度、継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	堺臨海工場 本社	コード (1112) エネルギー原単位の検討	堺臨海工場、本社のエネルギー使用量の把握とエネルギー原単位の検討 →H28年度、継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	堺臨海工場 本社	コード (1113) エネルギー管理規定の見直し	省エネ法改正への取組み エネルギー管理規定、要領書等の改訂・整備 →H28年度、継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	堺臨海工場 本社	コード (1111) 教育訓練	省エネ教育、啓蒙 →H28年度、継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	堺臨海工場	コード (1218) 水銀灯の照明のLED化	水銀灯の照明のLED化 →H28年度、実施済み	28 年度 ～ 0 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	堺臨海工場	コード (1299) スート水洗の省エネシステムの構築	スート水洗の省エネシステムの構築 →H28年度、未実施	28 年度 ～ 0 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策




# 実績報告書

届出者	住所	大阪府泉佐野市鶴原4丁目10-20	氏名	神鋼鋼線ステンレス株式会社 取締役社長 小池 磨
特定事業者の主たる業種		22鉄鋼業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		ステンレス線、合金線及びチタン線、その他線材二次製品、三次製品の製造を行っており本社、工場は大阪府内に一ヶ所である。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	4,948 t-CO <sub>2</sub>	4,829 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,258 t-CO <sub>2</sub>	5,120 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	-4.9 %	-1.5 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	-4.8 %	-1.3 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>熱処理における生産方法の見直しと、各職場の省エネ活動による電気使用量の低減により、全体的なエネルギー使用量を低減できたが、総生産重量の減少幅が、原単位換算では悪化する結果となった。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

・ 環境問題が人類共通の最重要課題であるとの認識のもと、地球環境の保全と環境に係る社会貢献を目指した企業活動を推進することを基本理念とした環境管理規定を制定している。

・ 毎月開催している設備保全PJフォロー会議の際に対策の推進状況を報告し、現状改善等を検討するとともに毎月開催している生産会議においても周知を図り、温暖化防止に関する体制を維持しています。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	神鋼鋼線ステンレス(株)	コード (1111) 設備保全PJ会議で推進する。	省エネルギー推進を温暖化防止の項も設け図っているが、更に意識づけを向上し削減を図る。平成15年度より実施継続中。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	神鋼鋼線ステンレス(株)	コード (1112) データを生かした原単位管理をする。	原単位データを整理し、各設備についてのエネルギー効率を算出し、適正化を図る。平成18年度より実施継続中。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	神鋼鋼線ステンレス(株)	コード (1113) 操業の生産量見合いでの見直しを推進する。	一部設備の操業を生産計画と連携し、連続もしくは間欠操業の運転とし、無効エネルギーの減少を図る。平成16年度より実施継続中。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	神鋼鋼線ステンレス(株)	コード (1114) エアークリープ等の早期発見修理する。	該当設備は勿論のこと、付帯設備の保守、点検も行い無駄なエネルギー消費を排除する。平成15年度より実施継続中。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	東京都千代田区丸の内2-6-1 丸の内パークビルディング	氏名	新日鐵住金株式会社 代表取締役社長 進藤 孝生
特定事業者の主たる業種		22鉄鋼業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<p>&lt;交通産機品事業部 製鋼所&gt; 日本で唯一、鉄道用車輪及び車軸を製造し、車のエンジンの重要部分であるクランクシャフトの製造拠点である。</p> <p>&lt;和歌山製鐵所 [堺地区]&gt; 大形形鋼生産拠点として、建築構造材であるH形鋼とハイパービームに加え、土木・港湾工用鋼材である鋼矢板及び、造船用鋼材であるインバート等を生産している。</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	319,763 t-CO <sub>2</sub>	300,623 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	330,160 t-CO <sub>2</sub>	308,305 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ 削減率(原単位ベース)	3 %	-3.5 %	-1 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		- %	-2.9 %	-0.3 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>基準年度に比べ、生産量減少に伴いエネルギー総使用量が減少した。ただ、原単位ベースでは、生産量減少の影響を受けたが、今後、引き続き、交通産機品事業部製鋼所と和歌山製鐵所 [堺地区] がバランス良く温室効果ガスおよび人工排熱の抑制対策を講じ、削減率目標(原単位ベース)を達成するよう努める。</p>	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

交通産機品事業部製鋼所及び和歌山製鐵所〔堺地区〕では、既にISO-14001を認証取得しており、省エネ活動をを主要テーマとして取り組んでいる。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	交通産機品 事業部製鋼 所	コード (1215) 電気使用設備 への省エネ技 術の導入	特高変圧器更新において、高効率タイプ の変圧器を採用することにより、電力使 用量を削減する。 (年間排出量 91t-CO2削減)	29 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	交通産機品 事業部製鋼 所	コード (1215) 電気使用設備 の使用頻度低 減	磁粉探傷検査装置更新において、探傷能 力を向上させ再検査率を低減させること により電力使用量を削減する。 (年間排出量 11t-CO2削減)	29 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	交通産機品 事業部製鋼 所	コード (1215) 電気使用設備 への省エネ技 術の導入	工場 (4工場) の天井照明を水銀灯から 高効率ランプに取替ることにより電力使 用量を削減した。 (年間排出量 185t-CO2削減)	28 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	交通産機品 事業部製鋼 所	コード (1215) 電気使用設備 の使用頻度低 減	磁粉探傷検査装置更新において、探傷能 力を向上させ再検査率を低減させること により電力使用量を削減した。 (年間排出量 16t-CO2削減)	28 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	交通産機品 事業部製鋼 所	コード (1114) 一般管理	工業炉の保守点検及び空気比の適正化に より都市ガス使用量を削減する。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	交通産機品 事業部製鋼 所	コード (1114) 一般管理	工業炉の排ガス回収設備の点検及び保守 等により、排ガス損失を減少し炉の熱効 率をUPして、都市ガス使用量を削減す る。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	交通産機品 事業部製鋼 所	コード (1114) 一般管理	省エネルギー月間活動、省エネルギー テーマ発掘活動をISO主要テーマとして 省エネルギー活動を実施する。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	和歌山製鐵 所〔堺地 区〕	コード (5999) 変圧器の更新	変電所更新 (高効率変圧器の導入) 原油換算50kl/年削減	27 年度
	レ	人工排熱				30 年度
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1		GHG排出		コード		年度
		人工排熱				～
						年度

**(3)**その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府堺市南区高尾2丁500番地1	氏名	新日本工機株式会社 取締役社長 島田 謙一
特定事業者の主たる業種		26生産用機械器具製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<信太山工場>工作機械製造 <岬工場>一般産業機械製造、遠心鑄鋼管製造		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	15,344 t-CO <sub>2</sub>	12,515 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	17,060 t-CO <sub>2</sub>	13,918 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)	
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	16 %	18.5 %	0 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	16 %	18.5 %	0 %	
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %	

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

H28年10月に会社経営者が代わり全社的に組織の見直し及び人員配置変更(事務所の集約・移動含む)と徹底的なムダの見直しを実施し、電力量が大幅に下がり温室効果ガスの排出も削減されました。	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

省エネルギー法に基づくエネルギー管理体制を活用して削減を行う。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	信太山工場	コード (1216) 空調設備の省 エネ化	空調用循環ポンプのインバータ化 11kw 17台 インバータ化 (年間80t-CO2削減)	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	信太山工場	コード (1218) 照明設備の省 エネ化	工場照明のLED化 HF400W 100灯, HF700W 12灯 (年間15t-CO2削減)	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	信太山工場	コード (1199) 工場設備の効 率的な稼働調 整	工場設備の効率的な稼働調整による電力 量削減 (年間300t-CO2削減)	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	岬工場	コード (1218) 照明設備の省 エネ化	工場照明のLED化 HF400W 100灯 (年間15t-CO2削減)	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	本社	コード (2114) 自動車の適正 な維持管理	日常の点検・整備についてはタイヤの空 気圧の適正化、エアクリナーの清掃・ 交換及びエンジンオイルの交換などを 行い、良好な整備状態を維持すること。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府堺市西区築港新町3-5-1	氏名	新日本理化株式会社 代表取締役社長 藤本万太郎
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		有機化学工業製造業。塩化ビニル用可塑剤(DOP、DINP)の生産、及び酸無水物の製造を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	6,330 t-CO <sub>2</sub>	5,453 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,450 t-CO <sub>2</sub>	5,563 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	-1.7 %	-30.7 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		- %	-1.9 %	-30.9 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(総生産量(可塑剤(DOP、DINP)、酸無水)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>28年度は、26年度に対して、可塑剤製造設備の稼働が約48%減、酸無水物製造設備の稼働が191%増であった。また、原単位あたりの温室効果ガスは、可塑剤が約43%増、酸無水が約59%減であった。生産数量の多い、可塑剤の稼働が5割近く下がり、一年中使用している原料や製品の保温蒸気が、原単位あたりの温室効果ガス増に起因している。また、DOPの生産から、DINPの生産へ変更するために、設備の洗浄を2ヶ月かけて行ったため、生産以外での蒸気及び電気の使用があった。</p>
---



◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

弊社はIS014001の認証を取得し、環境宣言の中で、環境負荷低減活動として、次の活動などを推進します。環境配慮型商品の購入および製品の設計・開発・製造・販売活動の取り組み、有害化学物質の把握・管理を強化して、排出物の削減活動をする。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	堺工場	コード (5231) デマンド監視装置の変更	デマンド監視装置を変更し、使用電力量の管理を行う。平成29年度に変更する予定。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	堺工場	コード (1113) 数値目標の設定	設備スタート時の水洗工程及び蒸留工程の待ち時間を短縮し、電気使用量を削減する。(年間1t-CO2を削減)。平成27年度より実行中。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	堺工場	コード (1113) 数値目標の設定	設備スタート時の蒸留工程の待ち時間を短縮し、蒸気使用量を削減する。(年間2t-CO2を削減)。平成27年度より実行中。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	堺工場	コード (1215) エアコンプレッサー設備の導入	省エネ効果の高いエアコンプレッサー設備に更新する。平成28年9月より稼働中。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	堺工場	コード (1218) 照明器具のLED化	蛍光灯及び水銀灯をLEDに変更していく。可塑剤設備蛍光灯49台中5台をLEDへ変更済。平成29年度に水銀灯97基中25基をLEDへ変更予定。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	堺工場	コード (1113) 工水ポンプの有効利用	可塑剤工水ポンプの有効利用により、電気使用量を削減する。(年間1t-CO2を削減)。平成28年度より実行中。	28 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	東京都立川市柴崎町1-2-13	氏名	宗教法人 真如苑 代表役員 米村 彬
特定事業者の主たる業種		94宗教		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		この法人は、真如教法の開祖伊藤真乗の立教の本義に基づき、仏究極の了義たる大般涅槃経を所依として「常楽我浄」を目し、濟世利人を実現する為、教義をひろめ、儀式行事を行い、信者を教化教育する事を目的とし、寺院および教会を包括するほか、この法人の目的達成に必要な業務及び事業を行う。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間				
平成	27年	4月	1日	～平成30年3月31日(3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	4,754 t-CO <sub>2</sub>	4,735 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,233 t-CO <sub>2</sub>	5,316 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29年度)	第1年度 (27年度)	第2年度 (28年度)	第3年度 (0年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0%	0%	0%	0%
	レ 削減率(原単位ベース)	3%	3.6%	-0.4%	0%
削減率(平準化補正ベース)		—%	2.9%	-2.4%	0%
吸収量による削減率		0%	0%	0%	0%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(建物延床面積)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>・全ての事業所で取組んだ結果、温室効果ガスの総排出量は4,754 t ⇒ 4,735 t と若干の削減ができた。また、冬期の行事が増加したため平準化補正後の総排出量は5,233 t ⇒ 5,316 t と増加した。一方で布教所の閉鎖に伴い延床面積が減少したため、原単位ベースでの排出量は0.4%増加となった。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

・これまで取り組んできた省エネルギーシステムを継続実施し、今回新たに定めた「温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制対策並びに電気の需要の平準化対策」を府内全精舎に徹底し、温室効果ガス削減に取り組む。  
 ・布教伝道部 次長 狭間 満をグループ長とする地球温暖化対策グループを設置し、毎月、対策の進捗状況を報告し、現状改善を検討し、発表する。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1112) 空気調和設備の運転改善	中間期などは窓を開けるなど適切な運用に努める。また、行事終了10分前に空気調和設備を停止する。(年間2t-CO2削減)	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1113) 熱源機器の運用改善	運転管理システムにて、熱源機器について最適な運用を行う。(年間1t-CO2削減)	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				
3	レ	GHG排出	悠音精舎	コード (1113) 熱源機器の運用改善	熱源機器・空気調和設備などのエネルギー使用量を把握し、適正な運転管理を行う。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				
4	レ	GHG排出	悠音精舎	コード (1215) 空冷ヒーポンチラーの設置	空冷ヒーポンチラー (能力1050kW) を新規設置し、運転を行う (既存の熱源設備の運転を縮小する) ことで熱効率を改善する。(年間80t-CO2削減) 「平成27年度に実施済」	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				
5		GHG排出	悠音精舎	コード (5121) 空冷ヒーポンチラーの夜間蓄熱運転	設置した空冷ヒーポンチラーを夜間に蓄熱運転を行うことで、昼間の電力使用を夜間にシフトする。「平成27年度より実施開始」	27 年度
		人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	悠音精舎	コード (1199) エネルギーシフト	自家発電より関西電力側の電気の方が二酸化炭素排出量が少ないため、自家発電より受電に切り替える。(年間60t-CO2削減) 「平成27年度に実施済」	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	悠音精舎	コード (2123)	エコドライブに努める。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度

(3) その他の抑制対策
